

2020 年度アーリーバードプラスⅠ学期コース

私たち TOMO はうすは、このプログラムを実施できる日本で2番目の団体となり、2019年度は高知市で2コース、仁淀川町で1コース実施しました。参加者のみなさんから高い評価（下記感想参照）を受け、2020年度も開催することになり、参加者を募集します。たくさんのおみなさまの参加をお待ちしています。



【募集内容】 ※プログラム内容の詳細は別刷りのリーフレットをご参照ください。

- ☆対象者：（原則として）自閉症のお子さん（4～8歳）をもつ保護者（2名）とそのお子さんの支援専門家（1名）6組
- ☆日程：インフォメーションミーティング 4/11（土）（参加希望者への説明会）
セッション①5/9（土） セッション②5/16（土） セッション③5/23（土） 家庭訪問A：5/30（土）～31（日）
セッション④6/6（土） セッション⑤6/13（土） セッション⑥6/20（土） 家庭訪問B：6/27（土）～28（日）
セッション⑦7/4（土） セッション⑧7/11（土） フォローアップミーティング 10/10（土）
- ☆時間：午前9：30～12：00
- ☆場所：健康カフェとりごえ（〒780-0949 高知市鳥越1-1 Tel.088-856-6470）
駐車場：もみのき病院駐車場 ここから北へ歩いて5分のところ
- ☆参加費：保護者…13,000円/家族（別途テキスト代4,000円）
支援専門家…会費（TOMO はうす年会費）2,000円（別途テキスト代4,000円）



【これまでの参加者のみなさんの感想】

【自閉症について何を学びましたか】

- ☆独自の世界があること。視覚が強いこと、言葉は忘れてしまったり子どもの中には入りにくいこと、事前準備をしたり視覚支援カード使ったりすることで、かんしゃく、パニック等が少なくなり、理解が得やすいことを学びました。冰山モデルの下のところを考えていこうと思います。（4歳児母）
- ☆子どもの行動について「冰山の一角しか見てないんですよ」ということが全体を通して分かりました。感覚的な違い、触覚、味覚、視覚、嗅覚、痛覚に鈍感だったり敏感だったりするということと、そのことへの理解が必要とわかりました。（5歳児父）



【コミュニケーションについて何を学びましたか】

- ☆言葉を減らしたり、アイコンタクトをとったり、分かりやすく「おしまい」を使うことで、自閉症の人は理解しやすい、と知った。PECSを使うことで、子どもの要求が目に見えて分かりやすくなり関わりが増えた。コミュニケーションについても、冰山モデルを使って、「なに」と「なぜ」を考えていくことが大切だと学んだ。（4歳児に関わる専門家）
- ☆子どもの困った行動の裏には理由があり、それを状況や環境を観察したり考えたりして見つけ出すことができれば、対応策も見えてくる。子どもを変えようとしても無理なので、まず自分の行動を変えなければいけないということ、親が意識して接し方を考える、行動することで子どもの問題行動は変わる可能性があるということを知った。（5歳児母）
- ☆まずは自分の息子に対してのコミュニケーションのとりかたについて。自分ではコミュニケーションをとっているつもりでも息子にとってはそうではないのでは、という「気づき」になりました。→自分が変われば息子も変わる、ということを知り、日々、感じています。（8歳児母）

【セッションや家庭訪問について】

☆セッションでは、自分の意見を言うのが恥ずかしかったり、難しい所もあつたりしましたが、年齢の違うお子さんの話も聞いて、未来への対応策を考えていけました。また家庭訪問では、先生たちとゆっくりお話ができたり、視覚支援グッズが作りかけてもそれを評価してもらったりして、すごく嬉しかったです。講義自体もすごく楽しくてあつという間の3か月でした。ありがとうございました。(4歳児母)

☆娘の笑顔が増え、家庭がより幸せになりました。ありがとうございました。(4歳児父)



【他の両親や専門家の人たちにこのプログラムをどのように伝えようと思いますか】

☆このプログラムは、よく聞くようなプログラムとは違って、毎回楽しく、楽しみで向かうことができる。しないといけない…ではなく、ストレスがなく、したくなる！やってみよう！と思えるもので、この短期間で我が子の変化、自分自身の変化が感じられる。何よりも今感じている孤独感や辛い思い、しんどさが絶対に軽くなる、ということ伝えたい。(4歳児に関わる専門家)

☆お箸を持たなかった我が子がスモールステップの支援で1か月もしないうちに持てるようになったことはとても感激しました。他にも視覚支援の効果の大きさもまざまざと感じました。今回、このタイミングで参加できたこと、先生方の熱、行動に感謝しかありません。(5歳児父)



【参考資料：2019年新聞記事】

高知新聞 2019年(平成31年)2月20日(水曜日) 社会2 (36)

自閉症児の親ら支援へ

いの町の元教員ら 英資格取得し開講

高知市「ソレ」 来月2日に説明会



自閉症の子どもの家族や教員ら支援者を支える、イギリス自閉症協会のプログラム「アリーバードプラス」。その実施資格を高知市の町の元教員、久武夕希子さん(62)ら県内在住の4人が取得した。家族らが集まって子どもの行動を分析し、よりよいコミュニケーション方法などに気付く約3カ月のプログラムで、今春から高知市で進めていく。(塚地和久)

「アリーバード」は同進行役となる。協会が15年以上前に開講したプログラム。基盤は行動分析や発達心理学。4〜9歳児の家族2人と支援者1人が、中2回の家庭訪問や、1チームとなり、3〜3カ月の後のフォローアップで個別支援も行う。家族の孤立感解消を支援する団体「TOMOHOUSE」を設立。昨秋、外部講師として

久武さんは高知大付属特別支援学校などで勤務し、2012年、自宅を事務局に発達障害児・者とその家族らからなる「アリーバードプラス」を設立。昨秋、外部講師として

といった効果が得られる。久武さんは高知大付属特別支援学校などで勤務し、2012年、自宅を事務局に発達障害児・者とその家族らからなる「アリーバードプラス」を設立。昨秋、外部講師として

世界では約150団体が取得。日本では東京都の児童精神科診療所が持っているだけで、久武さんが2団体目になる。

教員時代から行動分析や、取るべき行動を絵で示す「視覚支援」などを学んできた久武さん。「事前に『このプログラムは家族を元気にする』と聞いていたのが、取得の動機。さらに現地で『教え込まないこと、家族がこれならできそう、できた！』と実感できることが大切」と言われ、衝撃を受けた。高知でもそんなプログラムを広めていけたら」と話している。

プログラムは5月11日からスタート。その前に無料説明会を3月2日午前9時半から11時まで、高知市旭町3丁目男女共同参画センター「ソレ」で開く。定員50人。

申し込み、問い合わせは久武さん(電話090-7786-7472、またはメールtomohouse2012@gmail.com)へ。

【申し込み方法：メール (tomohouse2012@gmail.com 久武まで)】

- ①件名「2020年度EBP」参加申し込み ②氏名 ③保護者・専門家どちらか記入
 - ④所属(専門家の方) ⑤すぐに連絡できるメールアドレス ⑥すぐに連絡できる携帯電話番号
 - ⑦保護者の方：一緒に参加できる専門家がおいでる場合その方のお名前
 - ⑧支援する専門家の方：一緒に参加する保護者のお名前 ⑨お子さんの年齢〇歳〇か月
- ※お問い合わせおよび申し込みされてから3日たっても返信がない場合、お手数をおかけしますが久武携帯 090-7786-7472 まで連絡をお願いします。